

近畿圏の目指す姿(案)

1. 歴史・文化に誇りとこだわりを持って本物を産み育む圏域

- 関西は、古くから都が置かれ、長い年月をかけて多様な文化を創造・継承・蓄積し、多くの歴史・文化資産を有するだけではなく、多様性と厚みを兼ね備えた細やかな伝統工芸、生活、食、風土、眺めなどを有している。
- これら本物の日本固有の文化を大切に保全・継承し、本物にこだわる伝統を踏まえ、まちづくり、ものづくり、ひとづくりにおいても徹底して質にこだわり新たな本物(「関西ブランド」「日本ブランド」)を展開する圏域となる。
- 関西各地の固有資源(伝統・文化・風景等)を核として個性豊かな各地域の集合体として、圏域の魅力を高め、近畿圏全体で世界に誇れる国際都市となる。

2. 首都圏とは異なる多様な価値が集積する日本のもう一つの中心核

- 関西は、古くから日本の発展を牽引し、現在でも個性の異なる都市が競争しつつ、人口、経済力、情報、知的財産において、相当規模の集積を有している。
- これら近畿圏が持つ高度かつ多様な基礎ポテンシャルをシームレスに繋ぐことで、経済等の総合力を高め、首都圏と並んで我が国を支えるもう一つの中心核となる。
- 多様で厚みのある文化の集積を活かして、我が国における「文化首都」としての役割を担う圏域となる。
- 非常時の首都圏のバックアップ(経済維持・被災支援等)を担う圏域となる。

3. アジアをリードする世界に冠たる産業創造・交流拠点

- 関西は、世界有数の家電関連産業、医薬品等のバイオ産業や多様で層の厚いものづくり基盤産業に加え、完全24時間運用が可能な関空や阪神港など、次世代産業を発展させる高いポテンシャルを有している。また、歴史的にアジアとの繋がりも強く、交流も盛んに行われている。
- 国際競争を視野に入れた次世代産業の展開を可能にするため、陸・海・空の人流・物流の総合交通ネットワークを確立するなど、ハード・ソフトを合わせたドアtoドアのトータル時間・トータルコストを徹底的に削減する。
- 関西のエンジン産業として、次世代産業やクリエイティブ産業を位置付け、これにより多様で層の厚いものづくり基盤産業や成長が期待される新産業を牽引する圏域となる。
- アジアをはじめ世界の優秀な人材が関西を拠点に密度の高い交流を展開することにより、他地域にない独創性豊かなイノベーションを創出する圏域となる。

4. 人と自然が共生する持続可能な世界的環境先進地域

- 関西は、琵琶湖における水環境対策に古くから取り組んでおり、また、地球温暖化防止京都会議や世界水フォーラムの実施、コウノトリとの共生などの環境面での先進的な取り組みが行われている。
- 豊かな自然環境の保全・再生や地球温暖化防止などの環境対策を圏域全体でマネジメントするなどにより、環境先進地域を目指すとともに、環境関連産業や研究機関の集積を活かし、地球環境問題の解決に向け、世界に貢献する圏域となる。
- 流域圏に着目し水循環の管理体制を構築するとともに、近畿圏全体での廃棄物リサイクル等を行うなどにより、循環型社会を実現する圏域となる。

5. 都市と自然を日常的に享受できる圏域

- 関西は、独自の地形（山と平野・盆地の繰り返し構造。海・琵琶湖）のもとに個性ある都市が発達し、自然的魅力と都市的魅力的双方を同時に享受できる恵まれた条件を有している。
- 自然との近接性を活かし、二地域居住や一つの地域に住んでいても両方の魅力が味わえる住まい方など、多様なライフスタイルが選択できる圏域となる。
- 大都市部は国際ビジネス機能や高次の生産消費機能を発揮し、近畿圏全体をリードする地域となる。
- 地方部では、中心的な都市を核として周辺の地域と連携することにより、持続的に発展する広域的生活圏を形成する。
- 農山漁村では、多面的機能を十分に発揮させるための適切な整備と保全を図り、その上で、地域間の交流・連携や地域密着型産業の活性化等により維持可能な地域社会を形成する。

6. 人々が自律して快適で豊かに暮らせる高福祉圏域

- 近畿圏は三大都市圏の中でもとりわけ人口減少と高齢化が早期に進展することが懸念されており、そのスピードも圏域内の各地域により差異を有する。
- 安心して生活できるよう各地域が広域的な連携を図ることにより、近畿圏のどこに住んでも医療・教育等基本的な生活サービス機能を享受できる圏域となる。
- 特に、子育て世代の負担を軽減し、地域全体で子育てを支える社会を構築する圏域となる。
- 多様な人々が自由に社会に参画できるユニバーサルデザインの空間を構築する圏域となる。

7. 暮らし・産業を支える災害に強い安心・安全圏域

- 関西は、阪神・淡路大震災等の経験・教訓にともなう高い防災意識や防災関連の研究機関などの集積を有する一方、ゼロメートル地帯の水害の脆弱性や地理的に近接する大都市が同時被災による都市機能の麻痺が懸念されている。
- 東南海・南海地震や直下型地震による揺れや津波、豪雨・豪雪・高潮等の自然災害に強く、安心して生活し働ける圏域となる。
- 過去の災害の経験を活かし、防災・減災分野における研究・教育と実務を兼ね備えた、国内及びアジア・太平洋地域に貢献する国際防災拠点を形成する圏域となる。